

会議記録（要旨）

会議名	平成30年度 第2回杉並区子ども読書活動推進懇談会
日時	平成30年10月22日（月） 午後6時～8時
場所	中央図書館 地下視聴覚ホール
出席者	委員 岩崎委員、スギヤマ委員、滝田委員、楠本委員、石川委員、中山委員、鈴木委員（欠席：赤荻委員）
	事務局 中央図書館長、中央図書館次長、事業係（石栗係長、松澤）、資料相談係（佐川係長）、企画運営係（本橋係長、鈴木、早川）
配付資料	平成30年度 第2回杉並区子ども読書活動推進懇談会 次第 資料1(1)「杉並区総合計画」改定案（抜粋） 資料1(2)「杉並区実行計画」改定案（抜粋） 資料1(3)「杉並区行財政改革推進計画」改定案（抜粋） 資料1(4)「杉並区区立施設再編整備計画（第一期）・第二次プラン」計画案（抜粋） 資料2「杉並区子ども読書活動推進進捗管理票（30年第1四半期）」 その他 委員持ち寄り資料
<p>1 開会</p> <p>2 中央図書館長あいさつ</p> <p>3 「杉並区総合計画」等の改定について          （「杉並区総合計画」「杉並区実行計画」「杉並区行財政改革計画」「杉並区区立施設再編整備計画」の改定に当たり、図書館に関連する項目について中央図書館次長から説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>杉並区の最上位の指針に「基本構想」があり、それを具体化するための10年プランが「総合計画」、3年プランが「実行計画」である。</li> <li>「総合計画」の現状と課題としては、老朽化した図書館の改築・改修、電子情報サービスの推進、利用者の利便性向上等が挙げられている。</li> <li>平成24年度の「長期計画」策定時には、図書館利用者数を10年間で277万人から330万人に増やす計画だった。現実には横ばいに留まっているが、数値の下方修正は行わない。</li> <li>「実行計画」の「図書館サービスの情報化の推進」の項目では、従来掲げていた「区内大学図書館との連携」を「効率的な蔵書管理の検討」に差し替えた。</li> <li>「実行計画」の「図書館の整備」の項目では、中央図書館と永福図書館の改修・改築、さらに高円寺図書館の改築、高円寺地域の新図書館検討が挙げられている。</li> <li>「行財政改革推進計画」の「中央図書館のサービス業務実施方法の見直し」では、委託内容や職員の業務の見直しなど、中央図書館の改修に合わせた業務の効率化を掲げている。</li> <li>「行財政改革推進計画」の「地域図書館（業務委託館）の指定管理制度への移行」では、現行3館ある業務委託館について、平成32年度から指定管理者制度への移行を掲げている。</li> <li>「区立施設再編整備計画」では、老朽化施設の改築、高円寺地区の新図書館の検討が挙げられている。改築に当たっては施設の複合化、スリム化が基本的な考え方である。</li> </ul>	

〈質疑応答〉

- 委員 区立図書館は「1地域に2館」整備するという話だが、同規模の図書館を2つ整備する、という意味なのか？
- 事務局 これまで整備してきた13館のうち、中央図書館だけがセンター館として大規模で、他の図書館はそれより小さくほぼ同規模である。
- 委員 同じ地域にある2館は、それぞれに違う性格を持たせているということなのか？
- 事務局 特にそういうことではない。
- 委員 もっと機能分化した方がいいのでは？
- 委員 同じ地域に2館あるのなら、バリエーションを持たせた方が通う習慣が付きやすいと思う。地域ごとの公平感には問題が出るかもしれないが。
- 事務局 特色がそれぞれにあれば、利用者増につながる可能性はある。今後の課題である。
- 委員 図書館利用者数はほぼ横ばいだという話だが、人口動態や出版市場の縮小を考えれば、それでも健闘しているのではないか。図書館利用者数の目標値が高めなのは理解できるが、ほぼ横ばいという見通しを持っていてもいいのではないか？
- 事務局 計画を策定してから、経済的に厳しい時代が続き、スマホ等の普及で調べ物がすぐできたり、読書の時間が奪われたりしている。それが数字に表れているように感じる。また、サービスコーナーの利用は延びており、図書館利用の方法にも変化が出ている。
- 委員 サービスコーナーの利用者数は、図書館利用者数に含まれていないのか？
- 事務局 含まれていない。ただし実数はきちんと把握している。
- 委員 サービスコーナーでは、職員の方がかなり忙しそうにしていた記憶がある。委託や指定管理を考えてもいいのではないか？区民事務所に併設という都合上、個人情報取扱の件もありそれは難しいことなのか？
- 事務局 区民事務所は撤退したので、現在は委託により運営している。
- 委員 高円寺の新図書館構想だが、いっそのこと「子ども図書館」を作って差別化を図ってはどうか？また高齢化の進行を考えると、かつての「たびびとくん」のように、家の近くまで来てくれるサービスがあればいいと思う。
- 事務局 14館目の詳細は、複合施設になるであろう、ということ以外はまだ全くの白紙。現高円寺図書館はより北側へ移転予定なので、位置は青梅街道の南側になるかとは思ふ。皆さんの意見も参考にしたい。移動図書館のアイデアは良いと思うが、現在の施設再編計画等と比べると、どうしても優先順位は下がる。一つのご意見としてうかがっておく。
- 委員 全国的には、中央図書館こそ複合化しているケースが多いが、杉並は中央館だけが単独館としてやっていくのか？また、「ゆうゆうハウス」の機能を「調べものゾーン」継承するということだが、高齢者以外のターゲットについても考えがあるのか？
- 事務局 今後、施設を建て替える時は、近隣施設との複合化を必ず考えていく、という方針がある。永福図書館はその嚆矢だが、中央図書館は単独館として改修する。ただしフロアごとに機能の色分けは考えており、2階にはYAや児童コーナーを集めたり、複数の小会議室や調べものコーナーを設置する。図書館は「勉強する場所」に方向転換をしつつあり、そうした意味で「ゆうゆうハウス」の機能継承になると思う。
- 委員 小会議室など、ディスカッションの場だけでなく、クリエイトができるスペース、工作室、メディア・ラボのような空間があるのもっと良いと思う。
- 委員 イギリスには、図書館と公民館の複合施設があり、公民館部分ではさまざまな活動が行

われている。そうした仕組みがないと、入館者数を増やすことは難しいし、入館者数よりも利用者満足度を重視する方が意味があるとも言える。図書館で学習してその成果を発表できるような場作り、読書会の場作り、ファシリテーター的なものの設置、そうしたことを中央館で行っていければ、入館者数もある程度予測できるのではないかと。予算との兼ね合いもあるだろうが、いろいろなアイデアは出していきたい。

事務局 ハード面のみならず、ソフト面の充実も非常に重要である。図書館に集って学ぶ人たちが、次のステップに行けるような仕組みがあると良いと思う。

委員 参加者が次にはファシリテーターになるなど、循環型の学びの仕組みができると良い。図書館のやや問題ある利用者も、そうした学びの方向に誘導する、という考え方もある。今後ともこの懇談会でも、企画等あれば提言していきたい。

#### 4 平成 30 年度子ども読書活動推進進捗管理票の報告

(進捗管理票の報告の前に、「調べる学習コンクール」の杉並区の優秀作品を紹介)

委員 受賞者の了解を得たうえで、10年後の追跡調査などができると興味深いですね。

(平成 30 年第 1 四半期に行われた事業のうち、新しいもの、特徴のあるもの、興味深いものをピックアップして事務局から報告)

- ・ブックスタート活動の現状。うまく機能しているとの報告。
- ・あおぞらおはなし会の実施。
- ・ぬいぐるみおとまり会の実施。宮前図書館では、スギヤマカナヨさんのキャラ「みゃーまえ君」がホストという設定で実施。
- ・重症心身障碍児通所施設「わかば」、大塚ろう学校、さざんか教室での出張よみきかせ。
- ・小中学校は 64 校もあり、さまざまな事業に取り組んでいる。食育の一環として、とうもろこしやソラマメの皮むき等を体験、給食での実食と関連する絵本の読み聞かせといったコラボレーション。
- ・高井戸図書館と高井戸中学校でビブリオバトルを共催。
- ・学校司書を対象に、毎月テーマを決めての研修を実施。学校図書室の著作権、アニメーションなど。
- ・幼稚園児、保育園児が学校図書館を訪問、交流。
- ・永福図書館で読書通帳の作成、配布。
- ・図書館と中学校が連携しての YA 向きブックリストの作成。
- ・「すぎなみ教育報」に学校図書館紹介の記事が連載中。
- ・高校生の研究者を招いた講演会の実施
- ・大塚製菓との協定に基づき「熱中症予防教室」実施。
- ・「子どもセンター」と図書館との協力、図書館情報の提供。
- ・「ゆうゆう今川館」と今川図書館の共催による七夕飾り作り。

〈質疑応答〉

委員 プレママの時期に先取りで、ブックスタートについて広報活動はできないだろうか？

4 カ月検診の時は、母親は早く帰りたいと思っている。三鷹の中学校の家庭科の授業で、あかちゃん向け絵本の制作を教えているが、中高生にブックスタートを知らしめること

に大変な意義を感じる。ブックセカンド、ブックサードの取り組みをしている自治体もあり、1人で本を読めるようになった子どもたちへのフォローも大切。また、あおぞらおはなし会はとておいしいと思う。読書通帳も、広島ではカープやサンフレッチェのデザインを使ったり、岐阜では記帳できるシステムがあるなど、全国各地でいろいろな工夫がなされている。また、今年宮前図書館でワークショップをやった時は、「本の好きじゃない子集まれ」をテーマに、普段図書館に来ないような子をターゲットにした。松庵小では毎年恒例の「旅の絵本」というワークショップを開催しているが、子供たちからは、ネットよりも本で情報収集した方が面白い、という反応がある。

委員 企業との提携はもっとあってもいいのではないか。ワークショップ等から徐々に協力関係を広げていくのが良い。

委員 最初に企業ありき、といことではなく、まずミッションがあつて、それに見合う企業との協力関係を模索すべきだと思う。他自治体で事例のある、子供たちに向けての医療情報の提供や、がん教育の取り組みなど、ミッションを定めて企業と協力をしていくのがいいと考える。

委員 伊藤忠記念財団の「わいわい文庫」の寄贈とはどのようなものか。

事務局 固定級の特別支援学級に、伊藤忠記念財団が寄贈しているデジ資料のことである。

委員 タブレット等で利用できる、「マルチメディアデジ資料」というもので、文字の拡大や読み上げもできる。1枚のディスクに20程度の話が収録されていて、それを1話ずつディスクに複製して、使い勝手をよくして使われている。杉並区の実行計画等とは無関係で、伊藤忠記念財団が社会貢献として自主的に行っている事業である。

委員 企業にとって青少年はフューチャーマーケットとして魅力があり、青少年事業に取り組んでいるところはたくさんあるので、目的に応じていいお付き合いができればよいのではないか。

委員 赤ちゃんタイムの上の世代に対するフォローが少ないと感じる。2～3歳程度の子どもに、子どもセンターが何か働きかけをしているのか

事務局 はっきりした情報はないが、子どもセンターの職員が自ら子どもの本に関する情報提供をする、といったことは恐らくないと思われる。

委員 子どもセンターにおける読書活動については、情報があがってきていない、ということですね。調べていただいて、次回にもう少し情報をいただけるようにして欲しい。

## 5 その他、自由討議

(各委員持ち寄り資料)

- ・「2018年の出版／コンテンツ市場の動きと書店・著作者の今後」
- ・ジルベルト文庫便り
- ・新聞記事切抜き（「さわる絵本展」「蔵書のゆくえ その2」「築地の図書館もお引越し」）
- ・カナダ・バンクーバーの公共図書館に関する画像資料

〈次回開催予定〉

平成31年1月21日（月） 午後6時～